

## 1. 「道徳」の移行措置のポイント

新学習指導要領の全面実施は平成24年度からとなるが、答申における道徳教育の充実の観点等からも、道徳については移行期間となる平成21年度から先行実施となる。

## (1) 学習指導要領の改訂のポイント

## ● 道徳教育と道徳の時間の目標及び道徳の内容

- 教育基本法の改正の趣旨を踏まえ、道徳教育の目標を改善した。
- 道徳教育について、道徳の時間を要<sup>かなめ</sup>として、学校の教育活動全体で行うものであることを明確にした。また、要<sup>かなめ</sup>となる道徳の時間については、その特質を一層明確にするため、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」と改善を図った。
- 内容については、小学校と中学校の接続や学年の系統性等を踏まえて、内容項目の示し方や文言等について改善した。例えば、
  - ・ 2-(2)の内容項目から「感謝」の文言を取り出し、新たに2-(6)「多くの人々の善意や支えにより日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。」として二つの内容項目に分けた。
  - ・ 2-(5)「～謙虚に他に学ぶ広い心をもつ」を「～寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ」とした。

結果として全体の内容項目数を24項目とした。

## ● 指導計画の作成と内容の取扱い

- 指導計画の作成において、「校長の方針の下に全教師が、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という）を中心に協力して道徳教育を展開する」ことを明記した。
- 道徳の全体計画の作成においては、各教科等における「指導計画の作成と内容の取扱い」において道徳教育の目標及び内容に関する配慮事項が明記されたことを踏まえ、「第2に示す道徳の内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期」等を示すこととした。
- 今日の問題状況や生徒の実態等に即した指導がより充実し展開できるよう「指導内容の重点化を図ること」を明記した。
- 道徳の時間の指導に当たって、特に配慮すべき事項は以下の点である。
  - ・ 「先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、生徒が感動を覚えるような」の文言を加え、具体的な教材の開発や活用の視点を示した。
  - ・ 「自分の考えを基に書いたり、議論したりするなどの表現をする機会を設け、自分の考えを深め自らの道徳的な成長を実感できるように工夫すること」を示した。
  - ・ 「生徒の発達の段階や特性を考慮し、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること」を示した。
- 道徳教育を進めるに当たって、道徳の時間の授業を公開したりするなど、家庭や地域社会との共通理解を一層深めることを示した。

## 2. 指導改善の留意点

### (1) 各学校において求められること

#### ● 改訂の趣旨の理解

今回の改訂において何が求められているのか、改訂の趣旨及び中身を十分に理解する必要がある。

#### ● 新しい指導計画の作成

道徳教育に関して、これまでの教育実践の評価と課題を踏まえて、次年度からの具体的な実践に向けて、何を見直しどのような改善を図るべきかなど、新しい指導計画の作成する必要がある。その際、各学校では、「道徳教育の全体計画」とそれに基づく「道徳の時間の年間指導計画」の作成に当たって、校長が道徳教育の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に、全教師の参加と協力を得ながら創意と英知を結集して作成することが求められる。

例えば、道徳教育の基本的な方針には次のようなことが考えられる。

ア 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実について

イ 授業時数を確保することを<sup>かなめ</sup>含め要としての道徳の時間の指導の充実について

ウ 指導内容の重点化を図ることについて

エ 道徳教育推進教師の位置付けについて 等

また、具体的には、新たに付加・改善された内容項目等に基づく教材の整備と活用や職場体験活動・授業公開等を位置付けた年間の見通しをもつこと等が求められる。

#### ● 推進体制づくりと校内研修の充実

新しい指導計画を“画餅”としないために、その作成過程において全教師が協力して共通理解を図り道徳教育を展開するための、道徳教育推進教師を中心とした実働的な推進体制づくりを行う必要がある。

とりわけ道徳の時間の指導の充実が厳しく問われる中学校にあっては、道徳の時間の指導にかかわって全教師が参画できる体制をまずは構築する必要がある。逆に言えば、中学校にあっては、道徳の時間の指導こそが、同じ土俵に立って協働的に研究実践を進め、互いの授業力を高めていく数少ない場でもある。その効用はそれだけにとどまるものではない。例えば道徳の時間の年間指導計画の具体化にともなって、他の教師との協力的な指導、魅力的な教材の開発、学習指導案の作成・検討、授業の評価等が日々の協働的な教育実践の中にしっかりと根付くような組織づくり、場づくりが必要である。

したがって、道徳の時間における創意工夫ある指導や魅力的な教材の開発や活用については、学習指導案の作成や模擬授業の実施等、実践的で協働的に切磋琢磨する校内研修の場を計画的、発展的に位置付ける必要がある。<sup>かなめ</sup>要となる道徳の時間は教師の創意工夫によって一時間一時間丁寧に行われれば、教師と生徒とが互いに向き合うことのできる貴重な時間となるはずである。

#### ● 改訂版「心のノート」の活用

# 道徳教育の総合的推進

平成21年度予算額(案) 1,335,815千円(658,106千円)

○「教育振興基本計画」(平成20年7月1日 閣議決定)

「指導方法・指導体制等に関する研究や教材の作成などに総合的に取り組む。特に教材については、学習指導要領の趣旨を踏まえた適切な教材が教科書に準じたものとして十分に活用されるよう、国庫補助制度等の有効な方策を検討する。」

## 指導方法・指導体制等に関する研究

### 道徳教育推進協議会

道徳教育の推進方策に関する全国協議会を開催。

### 道徳教育実践研究事業

- ①指導内容や指導方法、
- ②指導体制、
- ③校種間連携等に関する調査研究を実施。

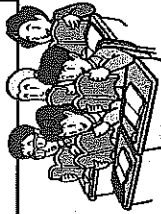
### 道徳の指導における魅力的な教材の在り方に関する実践的調査研究

新学習指導要領の趣旨を踏まえた魅力的な道徳教材の在り方について調査研究を実施。

## 道徳教育用教材の充実

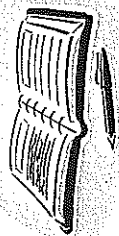
### 道徳教育用教材活用支援事業

学校教育における道徳教育の振興を図るため、学校で使用する道徳教育用教材に対する新たな財政支援を試行。



### 「心のノート」活用推進事業

新学習指導要領に対応した「心のノート」及び教師用資料の配付を行う。



## 道徳教育に関する指導者の養成

### 道徳教育指導者養成研修

道徳教育に関し、各地域において研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等を行う指導者を養成するための研修を実施。



※独立行政法人教員研修センターで実施。

(中期計画上の計画人数)

対象：都道府県等教育委員会の指導主事等

中央：220名

地区別：660名

高等学校学習指導要領新旧対照表（抜粋）

改訂案	現行
<p style="text-align: center;">第1章 総 則</p> <p style="text-align: center;">第1款 教育課程編成の一般方針</p> <p>2 学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。</p> <p>道徳教育を進めるに当たっては、特に、道徳的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。</p>	<p style="text-align: center;">第1章 総 則</p> <p style="text-align: center;">第1款 教育課程編成の一般方針</p> <p>2 学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。</p> <p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、個性豊かな文化の創造と民主的な社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。</p> <p>道徳教育を進めるに当たっては、特に、道徳的実践力を高めるとともに、自律の精神や社会連帯の精神及び義務を果たし責任を重んずる態度や人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。</p>

第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

- 3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項
- 各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。
- (1) 各教科・科目等について相互の関連を図り、発展的、系統的な指導ができるようにすること。
- (2) 各教科・科目の指導内容については、各事項のまとめ方及び重点の置き方に適切な工夫を加えて、効果的な指導ができるようにすること。
- (3) 学校や生徒の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようすること。
- ア 各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること。
- イ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図りながら、必修教科・科目の内容を十分に習得させることができるよう、その単位数を標準単位数の標準の限度を超えて増加して配当すること。
- ウ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした学校設定科目等を履修させた後に、必修教科・科目を履修させるようにすること。
- (4) 全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。

第6款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

- 3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項
- 各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。
- (1) 各教科・科目等について相互の関連を図り、発展的、系統的な指導ができるようにすること。
- (2) 各教科・科目の指導内容については、各事項のまとめ方及び重点の置き方に適切な工夫を加えて、効果的な指導ができるようにすること。

# 「心のノート」改善案一覧表

## 「心のノート」改善案（小学校低学年）

### 1. 指導の重点化に関するもの

該当する重点事項		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	自立心・自律性	P 1・P 3 (改訂：P30・P31) (改訂：P32・P33)
②	あいさつなどの基本的な生活習慣	P 1 (改訂：P30・P31)
③	社会生活上のきまりを身に付け	P 2 (改訂：P92・P93)
④	善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと	P 3 (改訂：P32・P33)

※生命の尊重（現行：P64・P65）に係る記載は現行の頁にあり。

### 2. 道徳の内容項目の変更に関するもの

該当する内容項目		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	<del>約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすることも、約束やきまりを守る。</del> (4-(1))	P 4, P 5 (改訂：P72~P75 現行：P68~P71)
②	働くことのよさを感じて、みんなのために働く。(4-(2))	P 6, P 7 (改訂：P76~P79)

### 3. 記述欄の工夫等に関するもの

改善内容		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	道徳の時間にかかわるもの	P 8 (改訂：P96・P97)
②	その他（2年間の振り返り）	P 9 (改訂：P94・P95)
③	その他（家庭との連携）	P 8・P 10 (改訂：P96・P97) (改訂：P102・P103)

「心のノート」小学校 低学年用冊子・ページ進行表

- :1. 指導の重点化に関する改善
- :3. 記述欄の工夫等に関する改善
- :配布資料の該当ページ

- :2. 内容項目の変更に関する改善
- :平17新設ページ

各視点の扉 ☆指導の重点化

現頁	新頁	内容(タイトル)
		<表紙>
		表紙裏(「きょうをたのしい日にしよう」)
1	1	中表紙
2	2	もくじ
4	4	うつくしいころをそだてよう
6	6	このノートのつかいかた
8	8	あなたのことをおしえてね
10	10	うつくしいころをそだてよう
12	12	<input type="checkbox"/> Ⅰ むねをはっていこう
14	14	1-(1) 気もちのいい一日
16	16	1-(1)
18	18	1-(2) がんばってるね!
20	20	1-(2)
22	22	1-(3) よいことすすんで
24	24	1-(3)
26	26	1-(4) うそなんかつくもんか
28	28	1-(4)
P1	30	☆(基本的な生活習慣)
P3	32	☆(善悪の判断、人間としてはならないこと)
	30	<input type="checkbox"/> Ⅱ こころとこころをむすぼう
	32	2-(1) あいさつはこころのリボン
	34	2-(1)
P11	36	2-(2) あたたかいこころをとどけよう
P12	38	2-(2)
	40	2-(3) ともだちといっしょ
	42	2-(3)
	44	2-(4) ありがとうをさがそう
	46	2-(4)
	48	☆(豊かな伝え合い)

現頁	新頁	内容(タイトル)
50	54	<input type="checkbox"/> Ⅲ いのちにふれよう
56	56	3-(1) みんなみんな生きているよ
58	58	3-(1)
52	60	3-(2) 生きものをそだてよう
54	62	3-(2)
60	64	3-(3) こころいっぱいこかんじよう
62	66	3-(3)
64	68	☆(生命を尊重する心)
66	70	<input type="checkbox"/> Ⅳ みんなときもちよくいよう
P4	68	4-(1) みんなのものだもん みんなで たのしく 気もちよく
P5	70	4-(1)
P6	76	4-(2) (働くことのよさに関すること)
P7	78	4-(2)
	72	4-(3) かぞくが大すき
	74	4-(3)
	76	4-(4) おせわになってます!
	78	4-(4)
	80	4-(5) あなたがそだつまち
	82	4-(5)
P2	92	☆(規範意識、社会生活上のきまり)
P9	94	☆(ふりかえり)
P8	96	☆(家族との交流ページ①…道徳の時間の記録)
	84	こころのアルバム・1ねん
	86	こころのアルバム・2年
P10	102	(連携と交流のページ②…家族からの手紙)
	88	104 見ることもさわることもできない「こころ」
		保護者の方へ(+奥付)
		<裏表紙>

16ページ増

「心のノート」改善案（小学校中学年）

1. 指導の重点化に関するもの

該当する重点事項		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	集団や社会のきまりを守り	P 1 (改訂：P96・P97)
②	身近な人々と協力し助け合う態度を身に付ける	P 2 (改訂：P52・P53)

※自立心・自律性（現行：P50・51）及び生命の尊重（現行：P66・P77）に係る記載は現行の頁にあり。

2. 道徳の内容項目の変更に関するもの

該当する内容項目		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	<u>自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。</u> <u>(1-(5))</u>	P 3・P 4 (改訂：P28～P31)

3. 記述欄の工夫等に関するもの

改善内容		本資料の該当頁 （「心のノート」の該当頁）
①	道徳の時間にかかわるもの	P 5 (改訂：P104・P105)
②	その他（2年間の振り返り）	P 6 (改訂：P102・P103)
③	その他（きまりやマナーを見つけよう）	P 7 (改訂：P74・P75)



「心のノート」小学校 中学年用冊子・ページ進行表

1. 指導の重点化に関する改善

3. 記述欄の工夫等に関する改善

配布資料の該当ページ

2. 内容項目の変更に関する改善

平18新設ページ

□各視点の扉 ☆指導の重点化

現頁	新頁	内容(タイトル)
		<表紙>
		表紙裏(「わたしにはある・・・」)
1	1	中表紙
2	2	もくじ
4	4	心のノートをひらいてみよう
6	6	そっと自分に聞いてみよう
8	8	心をみがき大きく育てよう
10	10	□Ⅰ かがやく自分になろう
P8	12	1-1(1) ふみだそうひとり立ちへのたしかな歩み
	14	1-1(1)
	20	1-1(2) 「今よりよくなりたい」という心をもとう
	22	1-1(2)
P9	24	1-1(3) 勇気をだせるわたしになろう
	26	1-1(3)
	28	1-1(4) 自分に正直になれば心はとても軽くなる
	30	1-1(4)
P3	28	1-1(5) (個性の伸長に関すること)
P4	30	1-1(5)
50	32	☆(自立心・自律性・・・「今の自分をみがこう、みんなの中で自分をさがそう」)
	32	□Ⅱ 人とともに生きよう
	34	2-1(1) 礼ぎ一形を大切に心をかよわせ合う
	36	2-1(1)
	38	2-1(2) 思いやりの心をさがそう
	40	2-1(2)
	42	2-1(3) ひとりじゃないからがんばれる
	44	2-1(3)
	46	2-1(4) みんなにささえられているわたし
	48	2-1(4)
P2	52	☆(人間関係・・・身近な人との協力・助け合い)

現頁	新頁	内容(タイトル)
52	54	□Ⅲ いのちを感じよう
58	56	3-1(1) 生きているってどんなこと
60	58	3-1(1)
54	60	3-1(2) 植物も動物もともに生きている
56	62	3-1(2)
62	64	3-1(3) 自然の美しさにふれて
64	66	3-1(3)
66	68	☆(生命の尊重・・・「たったひとつのわたしのいのちだからかがやいて生きる」)
68	70	□Ⅳ みんなと気持ちよくすごそう
70	72	4-1(1) やくそくやきまりを守るから仲良く生活・・・
P7	72	4-1(1)
	74	4-1(2) みんなのために流すあせはとても美しい
	76	4-1(2)
	78	4-1(3) わたしの成長を温かく見守り続け・・・
	80	4-1(3)
	82	4-1(4) 学校はどんなところ?
	84	4-1(4)
	86	4-1(5) わたしたちの心を育ててくれるふるさと
	88	4-1(5)
	90	4-1(6) わたしたちの国の文化に親しもう
	92	4-1(6)
P1	96	☆(規範意識・・・集団や社会のきまりを守ること)
	94	季節を感じる心をみがこう
	96	みんなのことを知ろう、自分を見つめてみよう
P6	102	(振り返り)
P5	104	(道徳の時間の記録)
98	106	心に残したい言葉(+野依良治)
100	108	自由黒板3年
102	110	自由黒板4年
104	112	また新しい春が来た
		保護者の方へ(+奥付)
		<裏表紙>

8ページ増

「心のノート」小学校 高学年用冊子・ページ進行表

- : 1. 指導の重点化に関する改善
- : 3. 記述欄の工夫等に関する改善
- : 配布資料の該当ページ

- : 2. 内容項目の変更に関する改善
- : 平18新設ページ

□各視点の扉 ☆指導の重点化

現頁	新頁	内容(タイトル)
		<表紙>
		表紙裏(「君たち、君たちはつねに…」)
1	1	中表紙
2	2	もくじ
4	4	心のノートを開いてみよう
6	6	これがいまのわたし
8	8	自分らしく心を育てかかやかせよう
10	10	□Ⅰ 自分を育てる
12	12	1-1) 自分の一日は自分でつくる
P7	14	1-1)
	16	1-2) 夢に届くまでのステップがある
	18	1-2)
	20	1-3) 自由ってなんだらう
P5	22	1-3)
	24	1-4) まじめであることはわたしのほこり
	26	1-4)
	28	1-5) 好奇心が出发点
	30	1-5)
	32	1-6) 自分を見つけみがきをかけよう
	34	1-6)
P1	36	☆(自立心・自律性①)…自立的な生き方)
	36	□Ⅱ ともに生きる
	38	2-1) 心と心をつなぐネットワーク
	40	2-1)
	42	2-2) あなたの心にあるそのあたたかさ
	44	2-2)
	46	2-3) 友だちっていいよね
	48	2-3)
	50	2-4) よりそうと、わかり合うことから
	52	2-4)
	54	2-5) 「ありがとう」って言えますか?
	56	2-5)
P3	60	☆(悩みや葛藤、人間関係…豊かな対人関係)
	58	□Ⅲ 生命を愛おしむ

現頁	新頁	内容(タイトル)
64	64	3-1) いま生きているわたしを感じよう
66	66	3-1)
60	68	3-2) 生きているんだね自然とともに
62	70	3-2)
68	72	3-3) 大いなるものの息づかいをきこう
70	74	3-3)
72	76	☆(生命の尊厳…「かけがいのないいのち」)
74	78	□Ⅳ 社会をつくる
80	80	4-1) ぐるりとまわりを見渡せば…
82	82	4-1)
84	84	4-2) どうしてゆがめてしまうのか?
86	86	4-2)
76	88	4-3) いきいきしている自分かかやいている仲間
78	90	4-3)
88	92	4-4) 働くってどういうこと?
90	94	4-4)
92	96	4-5) わたしの原点はここにある
94	98	4-5)
96	100	4-6) 学び合う中で
98	102	4-6)
100	104	4-7) 見つめようわたしのふるさとそしてこの国
102	106	4-7)
104	108	4-8) 心は世界を結ぶ
106	110	4-8)
P2	112	☆(規範意識…法やきまりの意義の理解)
P4	114	☆(社会参画…集団や社会の一員としての自覚)
	108	心にひびくことば(十毛利 衛)
	110	☆(自立心・自律性②、自己の生き方…「自分を見つめ はぐくみ ともに生きる」)
	112	☆(自己の生き方…「心豊かに生きていくために…わたしのテーマ」)
P6	114	わたしのページ5年→道徳の時間で気付いたこと
	116	わたしのページ5・6年
	118	さあ中学生そして未来へ
	120	道はつづく
		(奥付)
		<裏表紙>

8ページ増

「心のノート」改善案（小学校高学年）

1. 指導の重点化に関するもの

該当する重点事項		本資料の該当頁 (「心のノート」の該当頁)
①	自立心・自律性	P 1 (改訂：P36・P37)
②	法やきまりの意義を理解すること	P 2 (改訂：P112・P113)
③	相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること	P 3 (改訂：P60・P61)
④	集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつこと	P 4 (改訂：P114・P115)
⑤	悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、(自己の生き方について考えを深められるようにすること)	P 3 (改訂：P60・P61)

※生命の尊重（現行：P72・P73）に係る記載は現行の頁にあり。

2. 道徳の内容項目の変更に関するもの

該当する内容項目		本資料の該当頁 (「心のノート」の該当頁)
①	自由を大切にし、 <u>自律的で責任のある規律ある行動</u> をする。1－(3)	P 5 (改訂：P22・P23 現行：P22・P23)

3. 記述欄の工夫等に関するもの

改善内容		本資料の該当頁 (「心のノート」の該当頁)
①	道徳の時間にかかわるもの	P 6 (改訂：P122・P123)

「心のノート」改善案（中学校）

1. 指導の重点化に関するもの

該当する重点事項		本資料の該当頁 (「心のノート」の該当頁)
①	自他の生命の尊重	P 1・P 2 (改訂：P72～P75)
②	規律ある生活ができ、自分の将来を考え、	P 3 (改訂：P16・P17)
③	法やきまりの意義の理解を深め、	P 4 (改訂：P132～P133)
④	主体的に社会の形成に参画し、	P 5 (改訂：P134～P135)
⑤	国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける	P 6 (改訂：P136・P137)
⑥	悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、(道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるようにすること)	P 7 (改訂：P42・P43)

2. 道徳の内容項目の変更に関するもの

該当する内容項目		本資料の該当頁 (「心のノート」の該当頁)
①	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。(2-(6))	P 8・P 9 (改訂：P64～67P)

3. 記述欄の工夫等に関するもの

改善内容	
①	道徳の時間にかかわるもの
②	はじめの一步

「心のノート」中学校用冊子・ページ進行表

- : 1. 指導の重点化に関する改善
- : 3. 記述欄の工夫等に関する改善
- : 配布資料の該当ページ

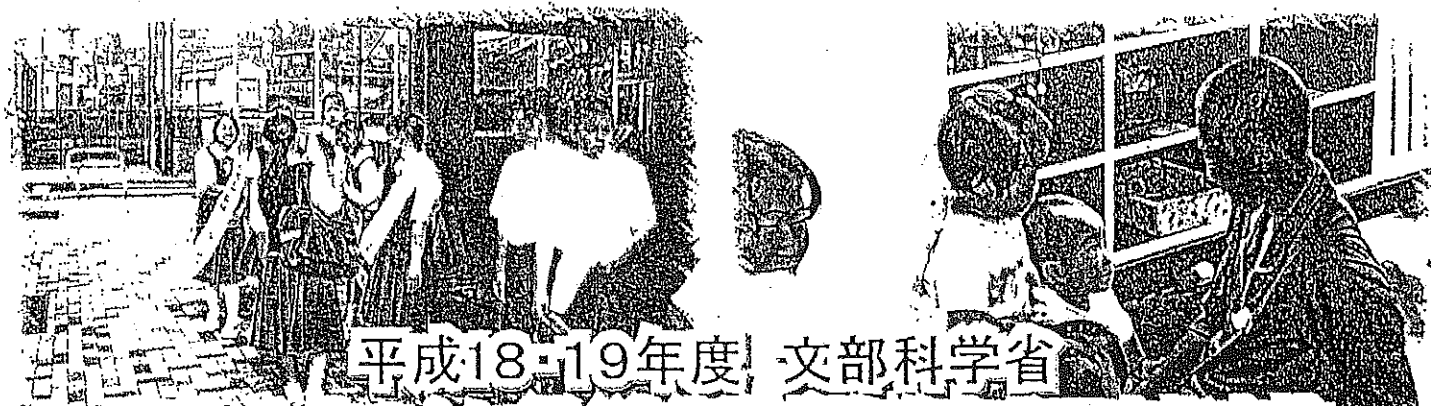
- : 2. 内容項目の変更に関する改善

各視点の扉 ☆指導の重点化

現頁	新頁	内容(タイトル)
		<表紙>
		表紙裏(「自分さがしの旅に出よう」)
1	1	中表紙
2	2	もくじ
P13	4	あなたがしるす心の軌跡
	5	私の自画像
P11,P12	6	はじめの歩(2P→4P)
	8	いまここに24の鍵がある
	10	心で見なければ本当のことは…
	12	□I 自分を見つめ伸ばして
P3	16	☆「自立心や自律性」
	14	1-(1) 元気でですかあなたの心から
	16	1-(1)
	18	1-(2) ステップアップのために
	20	1-(2)
	22	1-(3) 自分のことは自分で決めたい
	24	1-(3)
	26	1-(4) 自分の人生は自分の手で切り拓こう
	28	1-(4)
	30	1-(5) 自分をまるごと好きになる
	32	1-(5)
	34	☆心の姿勢
	36	□II 思いやる心を
P7	42	☆「人間関係」
	38	2-(1) 礼儀知らずは恥知らず?
	40	2-(1)
	42	2-(2) 「悪いやり」って…何だろう
	44	2-(2)
	46	2-(3) それが友情
	48	2-(3)
	50	2-(4) 同じ一人の人間として
	52	2-(4)
	54	2-(5) いろいろな立場があり考えある
	56	2-(5)
P8	63	2-(6) 感謝
P9	67	2-(6)
P14	58	☆心のキャッチボール
	60	□II この地球に生まれて

現頁	新頁	内容(タイトル)
66	72	3-(1) かけがえのない生命
68	75	3-(1)
62	76	3-(2) 悠久の時間の流れ
64	79	3-(2)
70	80	3-(3) かみしめたい人間として…
72	83	3-(3)
P1,P2	74	☆生命を考える「偶然性」「有限性」「連続性」
	78	□IV 社会に生きる一員として
	80	☆あなたはいつもひとりじゃない
	86	4-(1) 縛られたくないのは…
	88	4-(1)
	90	4-(2) 自分だけがよければ…
	91	4-(2)
	94	4-(3) この学級に正義はあるか
	95	4-(3)
	82	4-(4) 集団、そして一人一人が…
	84	4-(4)
	98	4-(5) 考えよう働くということ
	100	4-(5)
	102	4-(6) 家族だからこそ
	104	4-(6)
	106	4-(7) この学校が好き
	108	4-(7)
	110	4-(8) ここが私のふるさと
	112	4-(8)
	114	4-(9) 我が国を愛しその発展を願う
	116	4-(9)
	118	4-(10) 世界の平和と人類の幸福を
	120	4-(10)
P4	132	☆「規範意識」
P5	134	☆「社会参画」
P6	136	☆「国際理解」
	122	あの人からの一言 緒方 貞子
	123	あの人からの一言 谷 亮子
P10	124	道徳の時間(ノート)
	126	私が出会った言葉ー新しい出発
	128	私の自我像

16ページ増

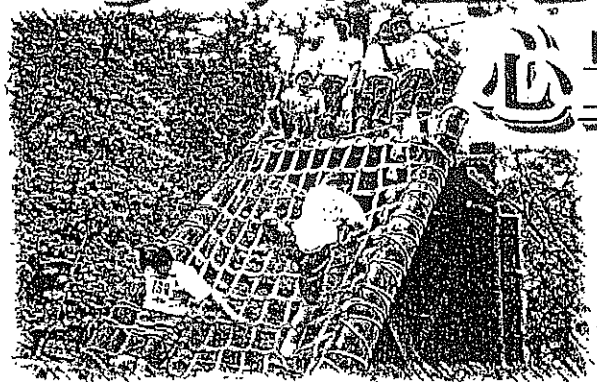


平成18・19年度 文部科学省  
 児童・生徒の心に響く道徳教育推進事業研究指定校  
 平成19年度 荒川区教育委員会研究推進校



# 夢や希望をもつて未来を拓く 心豊かな生徒の育成

—命輝く諏訪台中生を育てる—

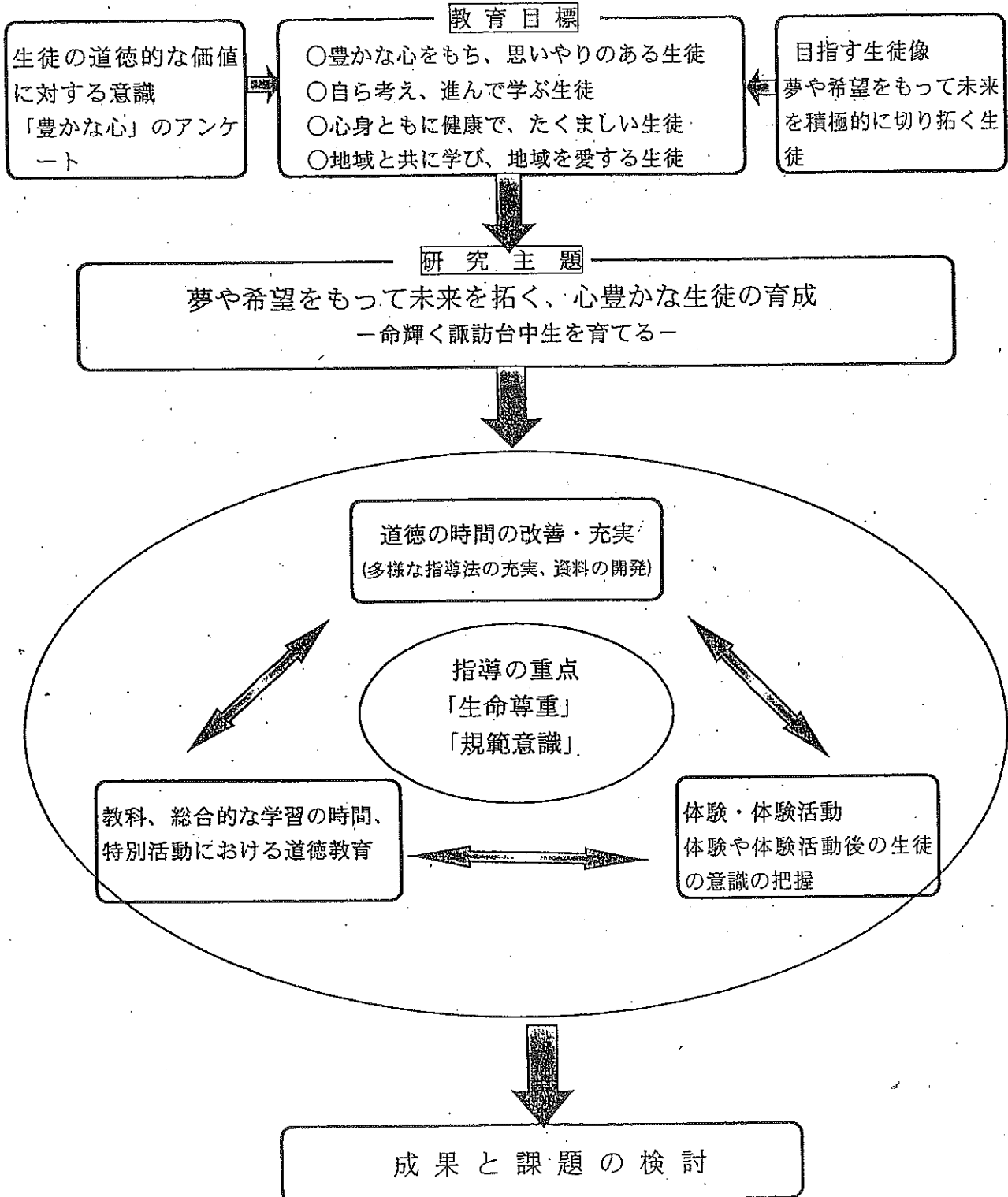


東京都荒川区立諏訪台中学校



## 2 研究の全体構想

本研究は、教育目標の具現化を目指し、研究主題を「夢や希望をもって未来を拓く、心豊かな生徒の育成 —命輝く諏訪台中生を育てる—」とした。生徒が「このような生き方をしたい」「このような人になりたい」という夢や希望がもてれば、生きる意欲がわき、毎日の生活に積極的に取り組み、主体的に未来を拓く力となる。この力をはぐくむために道徳教育を通じた実践研究に取り組み、特にそのかなめである「道徳の時間の改善・充実」を研究の中心に据え、「教科、総合的な学習の時間、特別活動における道徳教育」や「体験活動」を通して研究主題に迫るように努めた。

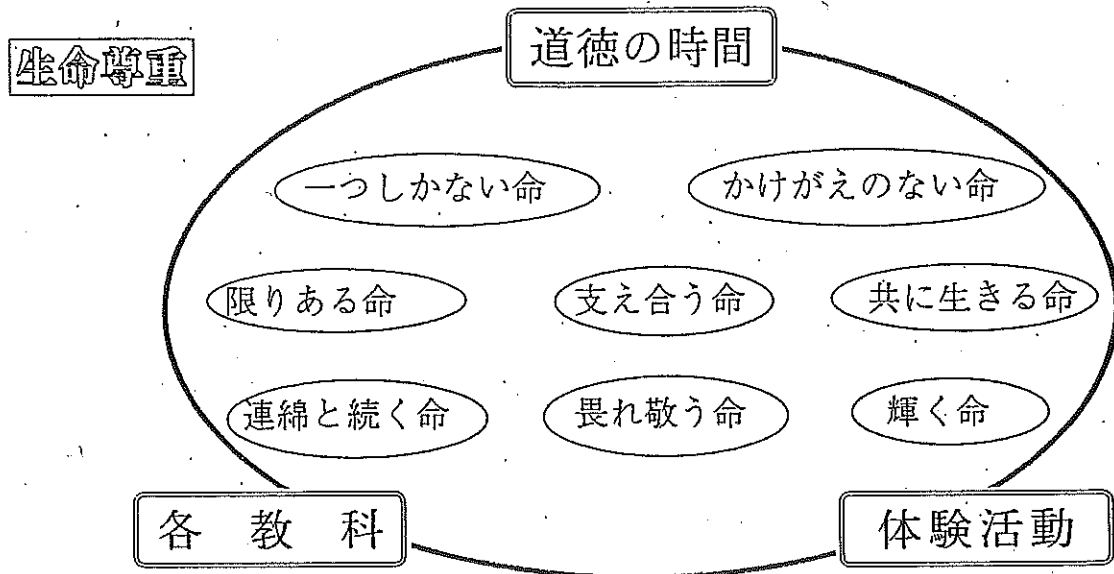




3. 重点的な指導についての指導計画

(1) 生命尊重

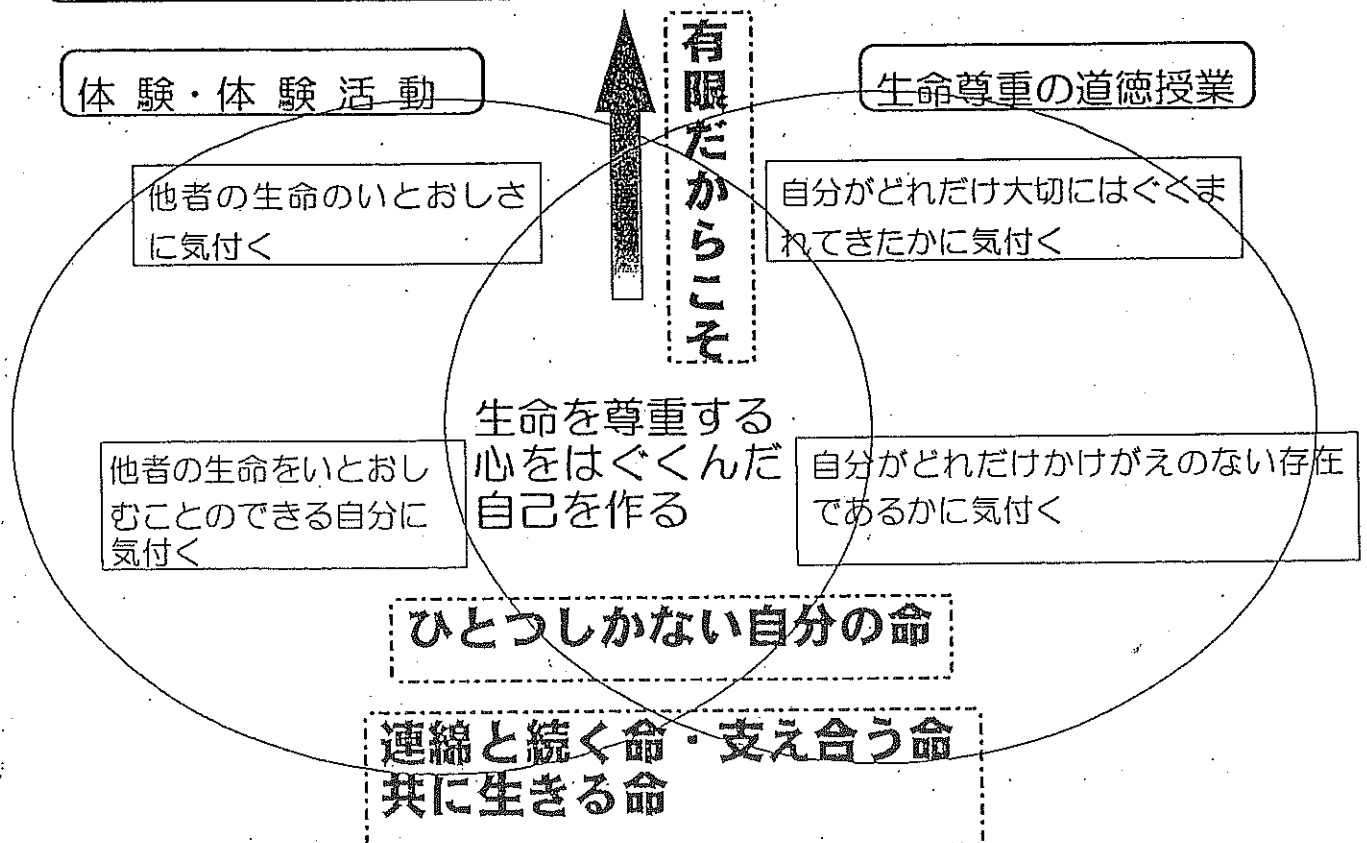
中学校の道徳における生命尊重の指導内容は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」と示されている。本校では、この指導内容に含まれる生命尊重の要素となるキーワードを、「一つしかない命」「かけがえのない命」「限りある命」「支え合う命」「共に生きる命」「連綿と続く命」「畏れ敬う命」「輝く命」と整理した。



また、本校の体験活動における生命尊重の指導の構想を以下のように考えた。

本校における「生命尊重」の指導の構想

自他の生命を尊重し、夢や希望をもって生きようとする力



さらに、各教科、総合的な学習の時間、学級活動など全教育活動を通じて「生命を尊重する心」をはぐくむ道徳教育とかわりのある場面を洗い出し、指導計画を次ページのように作成した。

18 「生命尊重」にかかわる指導（第2学年）

学 年	第 2 学 年												
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
道	「命の重さ」			「メダカが教えてくれたもの」							「たとえばくじに明日はなくとも」		
学級活動 学級経営				○健康な昨日を送るために				○安全な生活と自分					
各													
教													
科													
特別活動 総合的な学習の時間 その他													

「たといくじに明日はなくとも」

○安全な生活と自分

【国】「夏の葬列」 戦争中の主人公の体験から命の重みを考える

【社】様々な自然災害 自然災害への備えについて考える

【国】感覚機能の発動から障害者への理解を深める

【国】動物の生活と種類 メダカ方の生態から命について学ぶ

【保健】水泳 水の事故防止に関する心得を守り、健康・安全に留意して練習する

【技・家】繊維の成り立ち 絹の製糸から絹の命を考える

【国】環境保護 「動物園は何のためにあるの？」

【国】アイヌの人々の人権について 「アイヌの人たちの文化とことば」

勤労留学 福祉関係の仕事等から生命について考える

朝礼講話 「自尊感情を育てる 結核の石より」

朝礼講話 「防災の日によせて」

朝礼講話 「精一杯生きる 南極物語より」

薬物乱用 防止教室

【社】第二次世界大戦 戦争の悲惨さと生命の重さについて考える

【社】第一次世界大戦 戦時中の殺戮兵器の開発と生命の重さについて考える

【国】心臓、肺、その他の臓器の役割と、脳死、臓器移植について考える

【音】鑑賞「交響曲第5番」 ベートーベンの生き方から苦悩を乗り越えて生きることを学ぶ

【国】鑑賞「ゲルニカ」 戦争の悲惨と生命の尊重

【技・家】PL法

【国】「ノルバの3つの約束」 ネコがカモメを育てる寓話

【英】カンボジアの地雷問題「地雷の犠牲になるのは誰？」

○荒川区内めぐりをしてみてたくさんのお話を学びました。荒川マイスターの方のお店に行ってお話を聞いたり、お寺で学んできたのはもちろん、職員と協力することを一番学べたと思います。自分ではこうすればいいと思っていることでも、他人と意見が食い違ったときに、前は一方的に通しすぎていました。この地域めぐりを通して、もっと相手の意見も尊重すべきだったかなあと思いました。

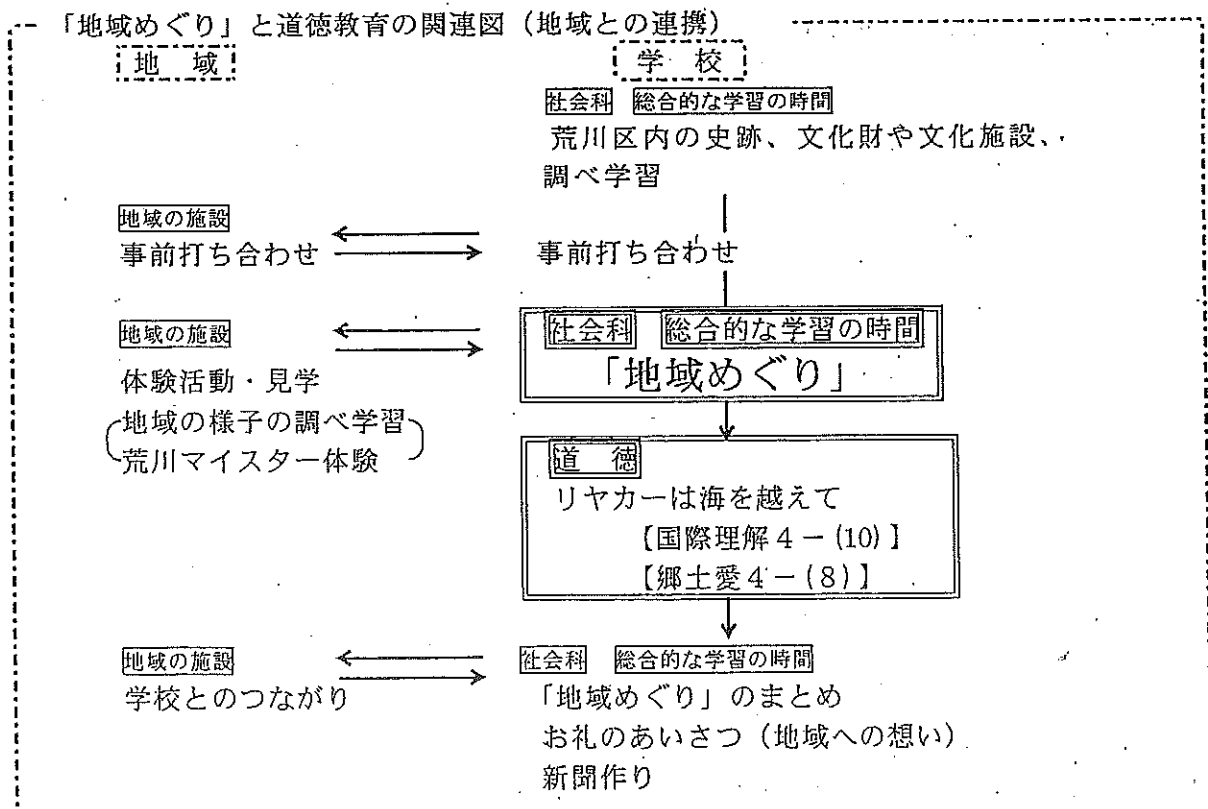
#### (4) 「地域めぐり」を通じて行う道徳教育

「地域めぐり」のねらいから、この体験活動を通じて行う道徳教育の内容は「自主・自律、責任」「個性の伸長」「郷土愛」「礼儀の意義」「感謝と思いやりの心」「集団生活の向上」などである。

活動後のアンケートを見ると、「礼儀の意義」や「感謝と思いやりの心」が上位であった。これは班行動中に見学地などできちんとした言葉遣いに心がけたり、道に迷ったときなどに地元の方たちに教えていただいたり、励ましていただいたことが強く心に残っていると考えられる。実施後、地域の方から「生徒がお寺や神社の境内で落ち葉はきをしてくれた」との感謝の意を表す電話があった。地域の人々との触れ合いや地域の文化財・史跡等に直接触れたフィールドワークから道徳的価値に対する意識が高まった。

また、「豊かな心」アンケートでは、郷土を愛する心は「A：とても大切だと思う」は37.0%であったが、この体験活動後は50.5%であった。生徒の感想にも地域を大切に作る心や誇りに思う気持ちが見られた。

以下に、「地域めぐり」と道徳教育の関連図（地域との連携）を示す。

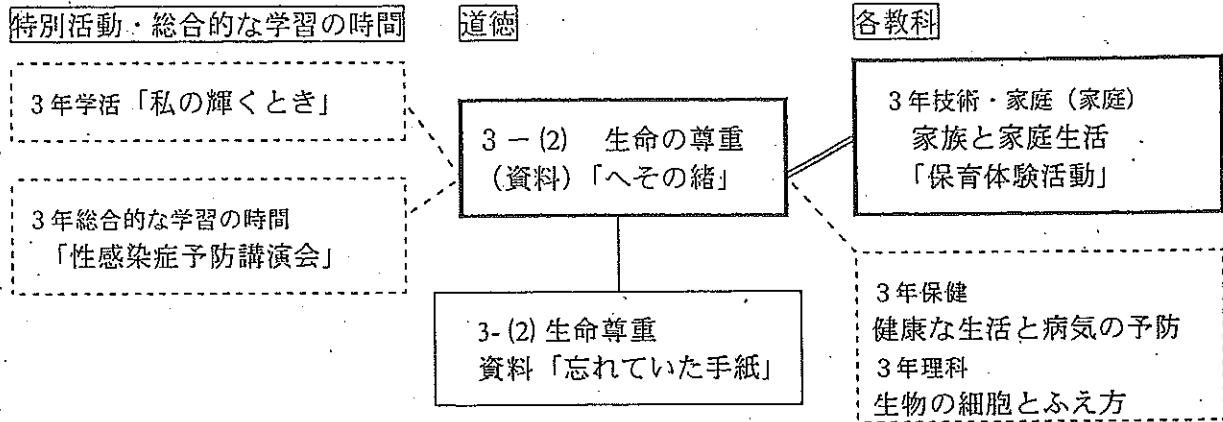


(3) 「保育体験活動」との関連を図ったことや小集団での話し合い活動、保護者の参加などの工夫を目標達成に生かすことができたか。

## 8 関連する他の内容項目や他の教育活動

(1) 本資料と関連する他の内容項目 : 4 - (6) 「家族愛」 1 - (2) 「強い意志」

(2) 本主題と関連する他の教育活動 :



## 9 考察

### (1) 授業記録とまとめ

生徒の発表や感想から

- ・自分の命は、いろいろな人の支えがあってここにあるのだと思った。だから、すごく大切にしなければいけないと思った。
- ・簡単に死にたいとか言う人がいるけれど、そんなことをいっちゃいけないと思った。充実した人生を送りたいと思った。
- ・保育実習の時に、小さい子がとてもかわいくて大切にしたいと思ったことを今日の授業で思い出した。
- ・親が命がけで生んで育ててくれたことに感謝しなければいけないと思った。
- ・お母さんたちの話を聞いて、それぞれ事情は違っても、みんな同じ思いで私たちを生んで育ててくれているんだと思った。
- ・改めて、やっぱり命は大事なんだと思った。

保護者の感想から

- ・「へその緒」という題名にちょっと驚きましたが、内容は命の大切さ、生きる価値、自分って何?等を考えさせられるものでした。一人で読めばさらっと終わってしまう文章をみんなで考えることによって「自分が生まれてきたことの意味」をより深く考え、意見を出すことができるのだと思いました。
- ・愛されて育つことの大切さ、母親の深い愛、親子の絆等々、子どもと真正面に向かうことの大切さを改めて感じました。
- ・どの子も消えてよい命なんてないということが分かったと思います。

### (2) 成果

- ・保護者参加の授業は、生徒と保護者との良きコミュニケーションの場となった。家庭での会話にもつながり、まさに家庭と学校との架け橋となった。
- ・保護者の感想の中に「道徳の授業で大切な内容を考えさせていることを実感した」というものがあり、道徳教育への理解が深められる場となった。
- ・地域の施設と連携することで互いの理解と協力体制をつくることのできた。

### (3) 課題

- ・今後、他の活動や道徳の時間と地域との連携を図った道徳教育についても研究し構想を立て、指導法の研究や工夫をしていくことが必要である。
- ・保護者や地域との連携は、日頃のつながりがあって成立するものであり、開かれた学校づくりの実践が大切であると感じた。

## VI 教科における道徳教育

### 1 各教科における道徳教育

各教科の目標や内容及び教材や学習活動の中には道徳教育にかかわる内容や活動が含まれている。生徒は各教科の授業を通してそれぞれの道徳的価値にかかわる見方や感じ方、考え方をはぐくんでいる。

本校では、各教科の指導で育成される生徒の道徳的価値にかかわる見方や感じ方、考え方を道徳の時間に補充・深化・統合していくことで、生徒の内面に根ざした道徳性を一層はぐくむことができると考えた。そこで、各教科で道徳教育にかかわる指導内容の洗い出しを行い、道徳教育を意識して教科の年間指導計画を作成した。その際、「学習指導要領解説 一道徳編」に挙げられている各教科の目標と道徳教育との関連を参考に、各教科における道徳教育を次のように考えた。

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝えあう力を高めることや言語感覚を豊かにすることなどを通して、感性や情操を豊かにするとともに、相手の立場や考えの尊重や望ましい人間関係を築こうとする態度を養う。</li> <li>○国語を尊重する態度を育てることを通して、我が国の文化や伝統を大切にすることを育てる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会に対する関心を高め、民主的、平和的な国際社会の一員として責任ある行動がとれる公民的資質の基礎を養う。</li> <li>○我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深める。</li> <li>○国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質を養う。</li> </ul>
数学	○数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てることを通して、筋道を立てて考える能力を育てる。(道徳的判断力の育成に資する)
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然に対する関心を高め、自然の事物・事象についての理解を深める。</li> <li>○科学的に調べる能力と態度の育成や科学的な見方、考え方を養う。(道徳的判断力の育成に資する)</li> </ul>
音楽	○音楽を愛好する気持ちを育てることにより、豊かな感性と情操を養う。また、合唱を通して、協力することの大切さを味わわせる。
美術	○創造活動を通して、心豊かな生活を創造していこうとする意欲や態度を育てるとともに、豊かな感性と情操を養う。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康の保持・増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。</li> <li>○明るく豊かな生活を営む態度を育てる。</li> <li>○運動における競争や協同の経験を通じて、公正な態度や規則を守り、協力して責任を果たそうとする態度を育てる。</li> </ul>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度などを醸成する。</li> <li>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>○家庭や家族について理解し、家族関係をよりよくする。</li> <li>○進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自国や世界の国々の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てる。</li> <li>○広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養う。</li> </ul>

※ ゴシック文字は、道徳の内容項目に直接かかわるものを示す

(3) 数学

① 数学における道徳教育

数学における道徳教育と関連する事柄は、「数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てることを通して、筋道を立てて考える能力を育てる（道徳的判断力の育成に資する）」ととらえているが、第2学年「関数」の単元の発展学習から、「生命の畏敬」について考えさせることとした。

② 相関関係の指導（数学）を通して「生命について畏敬の念」（内容項目3-(1)）を深める。

○データから予測しよう（東京書籍「数学」2年教科書より）

問題 下の表は、弘前市における1984年から2005年までの、3月の平均気温（℃）と、ソメイヨシノの開花日を記録したものである。この2つのデータの関係について考えてみよう。

年	3月の平均気温	開花日	年	3月の平均気温	開花日
1984	-1.3	5月6日	1995	2.0	4月24日
1985	0.6	4月26日	1996	1.2	4月27日
1986	1.2	4月26日	1997	2.3	4月22日
1987	1.3	4月23日	1998	3.3	4月14日
1988	0.9	4月27日	1999	1.3	4月22日
1989	4.2	4月14日	2000	1.2	4月26日
1990	3.8	4月13日	2001	1.8	4月19日
1991	1.7	4月22日	2002	4.2	4月14日
1992	2.5	4月22日	2003	1.8	4月19日
1993	2.6	4月23日	2004	2.8	4月16日
1994	1.1	4月22日	2005	1.0	4月28日

問1 3月の平均気温を  $x$ ℃、開花日を4月  $y$ 日として、この  $x$ 、 $y$  の値の組を座標とする点を、座標平面に書き入れなさい。

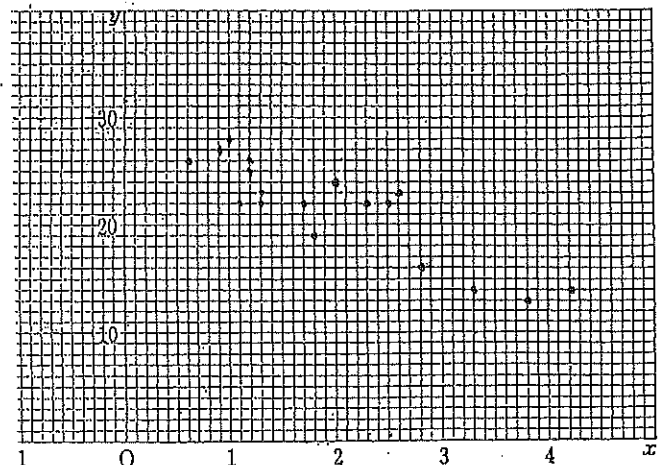
問1で書いた相関図をもとに、点の集まりのなるべく真ん中を通るような直線をひき、この直線を一つのめやすにして開花日を考えてみよう。

問2 問1の相関図をもとに、点の集まりのなるべく真ん中を通るような直線をひき、その直線の式を求めなさい。また、その式を使って、2005年の開花日を求めてみなさい。

問3 1980年3月の弘前市の平均気温は0.8℃でした。この年の開花日を、問2で求めた式を使って求めてみなさい。

③ 考察

$x$ 、 $y$  の値の組を座標とする点を座標平面に書き入れたとき、概ね一定の直線に近似した場所に集まっていることに関心をもたせるようにした。数学の教科固有の目標としては「関数関係を用いて考察したり予測したりすることができる」ことであるが、ここではさらに、桜の開花という生命の営みが、3月の平均気温と深くかかわっていることを気付かせることにより、生命の不可思議さを感じ取らせた。



(4) 理科

① 理科における道徳教育

理科における道徳教育との関連は「自然に対する関心を高め、自然の事物・事象についての理解を深める」「科学的に調べる能力と態度の育成や科学的な見方、考え方を養う」である。これらは道徳的判断力の育成に資するものが大きいと考えられる。また、理科で扱う単位については、道徳的心情に直接訴えかける内容も数多く、道徳教育との関連も大変深い教科であると考えられる。

② 道徳の内容項目と関連を図った実践事例

関連する内容項目「3-(2) 生命の尊重」「3-(1) 自然愛護・畏敬の念」

ア 単元名 「動物の世界」

イ 道徳教育と関連させたねらい

生命活動のためのからだのしくみを理解することを通し、生物のからだの全てが、その生物の生活に対応して便利にできており、それが絶妙のバランスで成り立っていることに注目させ、生命の尊重と自然に対しての畏敬の念をもたせることができると考えた。

ウ 指導計画

〔消化と吸収〕

時数	学習項目	学習活動	関連する内容項目
第1時	生命活動の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物は生きるために呼吸をし、エネルギーを得る必要があることを理解する。</li> <li>エネルギーは栄養分から取り出されることを理解する。</li> <li>植物は光合成によって栄養分を作り出す(既習)が、動物は食物を食べることで栄養分を体内に取り入れることを理解する。</li> </ul>	3-(2)「生命の尊重」  3-(1)「自然に対する畏敬の念」
第2時 ～第4時	消化のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的な消化と化学的な消化があることを理解する。</li> <li>化学的な消化では消化酵素のはたらきがあることを理解する。</li> <li>唾液の実験を通して、自分の体にも生命活動を維持するしくみが備わっていることを体感する。</li> <li>それぞれの消化器の役割を理解する。</li> </ul>	3-(2)「生命の尊重」  3-(1)「自然に対する畏敬の念」
第5時	吸収のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>小腸での吸収のしくみを理解し、栄養分の吸収が絶妙のタイミングで行われていることを理解する。</li> </ul>	3-(1)「自然に対する畏敬の念」
第6時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ教材を通し、生命維持のための営みが、ヒトの体内で日々行われていることを実感させる。</li> </ul>	3-(2)「生命の尊重」 3-(1)「自然に対する畏敬の念」

③ 考察

上の事例でも示したように、1つの小単元の指導においても、多くの場面で道徳の指導と関連する内容が存在する。このことを踏まえると、理科の教科指導と道徳の内容は密接な関連があると考えられる。生徒は、具体的な学習内容と関連づけて、道徳的な価値を見いだそうとする姿勢が顕著に見られた。

理科指導においては、常に道徳的内容との関連を視野に入れての指導計画が必要不可欠であると考えられる。

# 手渡された五百円玉

## — 繰り返しの発問を生かす授業の展開 —

- (1) 主題名 感謝と思いやりの心 [2-(2)] 関連項目 [4-(8)]  
 (2) ねらい 思いやりと感謝の心を持ち、他の人に温かく接していこうとする態度を育てる。  
 (3) 資料名 「手渡された五百円玉」  
 (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 「ありがとう」の語源について知る。	○「ありがとう」という言葉は、どのようにして生まれた言葉か知っていますか。 ・めったにないことという意味だと習った	○生徒が発言しやすいようになごやかな雰囲気づくりを心がける。 ○価値の中身に踏み込まず、簡単に触れるだけとする。
展 開	2 資料前半を聞いて場面状況をつかむ。 3 私の気持ちに迫る。	○資料の内容を読み取る。 ○なぜ、私は晴れ晴れとした気持ちになったのだろう。 ・自分が手伝ったことで、おばあさんに喜んでもらえたから ・普段見て見ぬふりをしていたが、やっと手伝うことができたから ○私は、なぜ五百円玉をおばあさんに返したのだろうか。 ・自分の気持ちがお金ではかられたように感じたから ・物やお金のために、したことではないと感じたから	○教師による範読 ○自分の行動に満足感をもっている私の気持ちに迫る。 普段、見て見ぬふりをしていた私の気持ちも確認しておく。 ○「あなたなら、五百円をどうするか」という発問で、何人かの生徒に役割演技をさせてもよい。(演技の後、行為の理由を語らせること。)
展 開	4 私の行為について吟味する。 5 資料後半を聞いて場面状況をつかむ。 6 五百円に込められたおばあさんの思いを考える。 7 背景を知った上で、再度、私の行為を吟味する。	○私は、五百円玉をおばあさんに返すべきだったのだろうか。 ・善意はお金で買うものではないから返すべきだ ・おばあさんの感謝の気持ちとして受け取るべきだ ○おばあさんは、どんな思いで五百円を渡したのだろう。 ・感謝の気持ちを伝えたかった ・自分の娘のようにかわいがっていた私の優しさがうれしかったから ◎やはり、私は五百円玉をおばあさんに返すべきだったのだろうか。 ・やはりおばあさんの気持ちを汲んで受け取るべきだった ・おばあさんの気持ちは手紙でも十分わかったし、返してよかった	○善意は代償を求めて行うべきものではないという固定観念を明確にしておく。 ○おばあさんの私への思いをしっかり考えさせる。 ○本当の好意に対しては、何かお返しをしたいと思うのが自然な感情であることを押さえる。 ○代償を求めない善意に対する、感謝の形のあり方にまで議論を高めるようにする。
終 末	8 思いやりや感謝の行為の原点を確認する。	○善意に対して代償は必要だろうか。 ・感謝の気持ちを表すことは大切だ ・表現のあり方こそ考えるべきだ	○自発的な感謝の気持ちの表現方法を私たちは考える必要があることを押さえる。



## 「手渡された五百円玉」

### 【前半】

「そういえば、あのおばあさん近所でときどき見る人だなあ。」

ある日の登校中、駅の階段を重たそうに風呂敷包みを抱えて、一歩一歩しんどそうに上がっているおばあさんの姿が目に入りました。おばあさんは背中が丸まった体をつえで支えながら、時々足を止め、ふらつくようにして階段を上がっています。そのおばあさんは、いつも同じ風呂敷包みを重たそうに持って歩いていたので、私の印象に残っていました。

「何かしんどそう。手伝おうかなあ。でも、話したこともないし、これまでも手伝ったことなんかないし……。」

私は人ごみの中、階段の下で少しためらいましたが、そのときはいつもどちがって、自分からそのおばあさんの方に歩き出していました。

「おばあさん、荷物を持ちましょうか。」

おばあさんは、一瞬驚いたような養情で私の顔を見た後、「ごめんなさいね。持ってくれる。ありがとう。」と言って、ゆつくりと私に荷物をあずけてくださいました。

その荷物は、持ってみると私が思っていた以上に重たく腕にずしりときます。おばあさんはいつもよく一人でこんな荷物を持っていたなあ……何が入ってるんだろう。私は左手に荷物、右手でおばあさんの体を支えるようにしながら、一歩一歩ゆつくりと階段を上がっていきました。やつこの思いでプラットフォームにたどり着きましたが、まだ電車は到着していません。

「おばあさん。これからどこに行くんですか。」

「そりゃあね。横川のお寺まで行くんよ。」

「だったら、同じ電車ですね。電車まで荷物も持っていくますよ。」

「ええんよ。ここまで持ってきてもらうだけで、じゅうぶん。ほんまありがたかつたよ。」

「おばあさん、同じ電車なんだし、遠慮せんかっついんですよ。」

しばらく待っているとホームの右手から、電車が入ってきました。私はおばあさんの荷物を持って電車に乗り込み、空いていた席を探しておばあさんに座ってもらいました。おばあさんはゆつくりと座席に座った後、「ほんとありがとね。ほんと助かりました。」と話され、笑顔で頭を下げられました。私も、笑顔で頭を下げながら、そのおばあさんの表情を見て安心し、晴れ晴れした気持ちいっぱいでした。私は次の駅で降りるため、その場を離れました。立ち去る私の方を見ては、おばあさんは何度も頭を下げておられました。

私は、気持ちよく近くのドアの前に立って外の景色を眺めていました。いつもと同じ風景、でも今日は灰色のビルも、緑の公園の木々もいつもより明るく色鮮やかに見えます。そんな風景を眺めながら、ぼつとしていたとき、突然、後ろから私の腰のあたりをたたく人がいます。びつくりして、振り向くとさつきのおばあさんです。私は腰を落として、おばあさんの話を聞こうとしました。おばあさんは、小さな声で「さつきはありがとう。お礼ですよ。これで……。」と言って、白い紙に包まれたものを、私の手に握らせました。

もしかして……私はその包み紙の中身を確認しようと、とつさに包み紙を開いてみました。すると中には五百円玉が一枚入っています。

「えっ……。」

突然のことに驚き、私はとまどってしまいました。

「おばあさん。気持ちほうれいけど、お金をもらうわけにはいきません。」

「ごめんね。持ち合わせとるもんがなくて……。」

「いいえ、金額の問題じゃないんですよ。」

「いや、そういうつもりじゃなかったんだよ。ただこのおばあちゃん、あなたが……。」

私は、おばあさんの言葉を最後まで聞かず、お金を押し返すようにして足早にその場を逃げ去りました。先程までの晴々した気持ちが何だか重苦しい気分になっていました。

### 【後半】

それから二、三日経ったある日、帰宅した私に母が話かけてきました。

「今日、中野のおばあさんが来られたのよ。」

「えっ。そのおばちゃんってだれ。」

はじめて聞く名前でした。

「そうねえ。あなたはちっちゃかったから覚えてないかもね。このあいだ、あなたが駅で会ったおばあちゃんよ。あなた、荷物を持って差し上げたんだって、えらいじゃない。」

「何で、おばあさんが知ってるの。」

私は何が何やらよく分かりませんでした。おばあさんはお礼を伝えに家に来られたのだそうです。母からおばあさんについて話を聞きました。そのおばあさんは、戦争中に家族を原爆で失い、たった一人生き残った幼い娘さんも白血病になり、そのころ経済的な余裕がなくて治療を受けることなく亡くなられたこと。いまは貧しかったあのころのように娘さんが空腹で苦しまないよう、毎日のように娘さんの墓石にお菓子や食べ物を持って行かれていること。実は私がまだ幼稚園のとき、仕事で帰宅が遅い両親に代わって、私の面倒を見てくれたこと。今は身寄りがなく、話し相手もなく一人でさびしく生活されていることなどを聞きました。また、たまたま母と会った時には、私のことをいつも気にかけてくれていたそうです。でも、なぜ私だと分かったのだろう。

「あなたのそのほくろで分かったそうよ。」

確かに私の左ほほには、少し目立つほくろがあります。おばあさんは、そんなところまでしっかりと覚えてくれていたんだ。そして母が、おばあさんからあずかったという私あての手紙を手渡してくれました。その手紙は、私あての名前が、丁寧に書いてあり、しっかりと封がしてありました。

心やさしいあなたへ

この間は、ありがとうね。ずいぶん大きくなったんだね。歳のせいかな、目も悪くなって、すぐにあなただと分からず、普段あなたとすれちがっても、声をかけることもできませんでした。お金のこと、ごめんね。気分を害してしまったでしょうね。ただ、何だかあなたのことが私の娘のように思えて。娘には、少しのおこずかいでさえ、満足に与えてやれなかった。それに、あなたが小さかったときのことを思い出してね。あなたに親切にしてもらって、ほんの少しの間でも話し相手になつてくれて、あなたの気持ちがとてもうれしかったものだから。これからも、元気でやさしい人であってね。

私は、なんだかおばあさんに「悪いことしたな」という気持ちと、「よかつたな」という複雑な気持ちになりました。ただ、今度、町でおばあさんに出会ったら、声をかけてみようと思いました。

# 活用に生かすための実践報告

## ◎「手渡された五百円玉」

### 1 主題の設定

この学習のねらいは、私とおばあちゃんの交流を通して、思いやりと感謝の気持ちのあり方や表現について、生徒に深く考えさせることにある。特に感謝の気持ちの表し方に焦点をあて、生徒の多様な意見を引き出しながら、感謝や思いやりの気持ちが生まれる心情にせまりたい資料である。

### 2 指導過程の工夫

資料を前半と後半に分けた展開を考えた。登場人物の心情にせまるため、繰り返して発問する指導過程をとっている。そのため、時間配分に十分留意し、中心発問をしっかりと生徒に考えさせたい。導入5分、展開前半部15分、展開後半部20分、終末10分（感想文を含む）の時間配分で考えたい。また、発問の多さによる思考の混乱をさけるため、ワークシートを用意し、生徒に質問事項や考えをまとめさせたり、即興劇を取り入れるなど工夫が必要である。

### 3 発問の工夫

中心発問を前半部で「私は、五百円をおばあさんに返すべきだったのだろうか」、後半部では「やはり、私は五百円をおばあさんに返すべきだったのだろうか」ととらえた。このとき、そう思う理由も必ず考え、答えるように指示しておく必要がある。

また、指導案には記載していないが、補助発問として「私はなぜ、足早にその場を立ち去ったのだろうか」、前半部を読んだ後で、「後半部のストーリーはどうなるかな」など取り入れても、おもしろい。

終末で、思いやりや感謝の行為の原点を確認して授業を終えたい。登場人物の行為について善悪を決めつけるような展開にならないように注意が必要である。

### 4 生徒の反応（授業後の感想）

生徒は、それぞれの発問について、自分の考えをワークシートに真剣にまとめていた。中心発問に対する発表では、前半部で返すべきと答えた生徒が20名中10名、もらうべき6名、分からない4名。後半部では、もらうべき13名、返すべき7名となった。理由としては、ほぼ指導案での予想と同じような考え方であった。しかし、多くの生徒の気持ちとして、感謝の気持ちを表す「ありがとう」の言葉は大切だと考えていたようである。

### 5 実践者からの一言

この資料は、日常生活の中で、生徒が経験しやすい状況が描かれている。実際に、同じような体験をしたことがあるという生徒も見られた。内容の読み取りはそれほど複雑でもなく、分かりやすいと考えられる。そのため、対象学年としては、第1、2学年が適当ではないかと考える。発問数が多く、やや深い思考を要求するため、生徒が授業中積極的に参加するよう、役割演技、ワークシートなどを活用し授業を展開する必要があると考える。また、いかに、生徒の多様な意見を引き出すかが、学習を深められるかどうかの分岐点であると考ええる。

（大朝中学校 川上貴志）

# 白 い 記 憶

## ～「死」を通して「生」を考える取組み～

(1) 主題名 生命の尊さ [3-(2)]

(2) ねらい 「死」から生きることを考え、自他の生命を尊重する心情を育てる。

(3) 資料名 「白い記憶」

(4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 これまでの体験を振り返る。	○あなたが「生きているなあ。」と実感するのはどんな時ですか。 ・部活の試合でシュートを決めたとき ・→嬉しいから ・好物を食べているとき ・→おいしくて幸せだから。	○個々によって「生」を実感する場面は違うと思うが、合わせて理由も述べさせておく。
展 開	2 資料の前半を読み、主人公の心情にそって考える。  3 資料の後半を読み、主人公と共に「死」から「生きること」の価値を追求する。	○初めて遺体を見たとき、主人公が身動き一つできなかったのは、どんな気持ちからだったのだろう。 ・怖かったから ・どうしてよいのかわからなかった ○死体が「何かの塊」のように見えたのはなぜだろう。 ・動かないから ・感情がないから ○指輪のあとに気付いた主人公は、なぜ「何でだよ、何でなんだよ。」と心の中で叫びながら、苛立っていたのだろうか。 ・相手が生きていたときのことを考えなかったから ・実習中、技術が上達することしか頭になかったから ◎最後に黙祷を捧げ、お辞儀をしたのは、どんな気持ちからだろう。 ・ありがとうございます。(感謝) ・安らかに眠ってください。(冥福を祈る気持ち) ○「指輪のあと」に気付かなかっただら、主人公はどんな医者になっていたのだろうか。 ・技術や結果だけを重視する医者 ・患者の気持ちを考えない医者	○漠然とした「死に対する恐れ」の感情を、主人公の気持ちになり想像してみる。  ○「指輪のあと」が象徴的に意味していることについては生徒全員が理解できるように配慮する。  ○最後の日、遺体に札をつけなかったことと合わせて考えると、多様な意見が出るだろう。 ○この物語には続きがあることを知らせて、範読する。 ○主人公の述懐を読み、再度、最後に黙祷を捧げ、お辞儀をした意味を考えさせてもよい。
終 末	4 「生」と「死」をつなぐ『生き方』について考える。	○教師自身の体験をふまえた説話を行う。	○「心の元気Ⅰ」の告知をテーマとした「ぼくの気持ち」を視野に入れた終末を工夫する。

# 「白い記憶」

## 《前半》

あれは、僕が医大の二年生の秋だった。

一般教養や医学入門の講義がほぼ終了し、いよいよ人体解剖の実習が始まることになった。五く六人が一つのグループになって、三ヶ月かけて一体の人体を解剖していくのだ。医者を志す者として、いよいよ本格的な学習が始まることへの期待と、人体にメスを入れることへの不安が入り混じった気持ちで、その日を迎えた。

実習室に一步入ると、ひんやりとした空気と共に、消毒液の独特のにおいが漂っていた。ステンレスの解剖台の上には、すでにシートで覆われた死体が乗せられている。

人体番号五三二番。通常、このような人体解剖の協力者の情報は、いつさい僕たちには伝えられない。名前や年齢はもちろんのこと、死因や死亡時期でさえ知らされることはない。いわば、そこにあるのは、どこのだれなのかわからない「死体」なのである。そして、僕たちはこれから三ヶ月、この「死体」とつきあっていくのだ。

初めに、僕たちは鞆褌を擽げた。そしてそのあと、教授が死体にかぶせてあったシートを取り除いた。

一瞬、息をのんだ。男性だった。年齢は四十歳前後であろうか。僕は、しばらくの間、その硬直した身体を不思議な気持ちで眺めていた。それまで身内の死を経験したことがなく、死んだ人間の姿を見るのは、その時が初めてだったからかもしれない。とにかく、死に対する畏れが、そのまま「死体」という形で横たわっているようで、僕は、身動き一つできなかった。

それから、教授の説明が始まり解剖の準備をすすめていくうちに、僕は、次第に平静を取り戻していった。当たり前のことだが、解剖台の上の死体には、呼吸の気配も何も感じられない。体温もなく、反応を示すこともない。時間がたつにつれ、だんだんと、この死体が、微動だにしない何かの塊のように見えてくる。メスを執る今となつては、どこのだれかわからないほうが、かえってよけいな感情がわいてこなくてすむのが救いであった。

解剖が始まった。今日は、胃から小腸にかけての学習である。まず、腹部を開き、臓器を丁寧に取り出す。教授の解説を聞きながら、さらにその内部の様子を丹念に見ていく。そして、縫合して臓器をもとに戻す……。それは、まるで、厳かな儀式のようで、僕たちは最初から最後まで無言だった。

実習は予定どおりに進み、最後に腹部を縫合し、全身を布で巻いて、五三二番の札をつけ、シートをかけて終了した。死体はというと、専門の技師によってアルコールのプールにつけられ、次の実習まで、そこに保管されるのだという。

その日、僕はひどく疲れていた。そのくせ、どこか神経が高ぶっていて、深夜になつてもなかなか寝付けなかったのをおぼえている。

その日以来、実習はほとんど毎週行われた。内臓が一通りすむと、脳や眼球、筋肉、骨、神経など、人間の肉体のあらゆる部分を学習することになっていたからである。

一ヶ月を過ぎると、僕たちは実習に慣れ、臓器の状態について、意見を交換しあいながら解剖をすすめるようになった。そのころから、輪番で、最後の縫合や片づけを一人で受け持つようになり、午後

の講義のあとなど、「今日の五三二番の件だけど……。」と、だれからともなく切り出すと、「もう少し浅く切らないと神経があるからな。」とか、「もっと早く縫合できたんじゃないのか。」とか、自分たちの技術について、議論が続くこともしばしばだった。

そして三ヶ月がたち、人体解剖の実習は終了した。

最後の日の片づけは、僕の番だった。教授やグループのみんなが引き上げたあとの実習室は、やけに広く感じられた。改めて見渡すと、なんとも殺風景な部屋である。冬の冷たい空気の中で、僕は、死体に布を巻き付けていった。頭、顔、首、肩、胸部……。そして、肩先から腕へ……。

その時、僕は、目を見開いた。見たのだ。死体の左手の薬指に、うつすらと残された白いあとを。思わず死体の手をとって、僕は顔を近づけた。そして、もう一度よく見た。(間違いない。指輪のあとだ。)

気づいたとたん、急に、僕の脳裏にさまざまな思いが浮かんできた。(この人、結婚していたんだ……。奥さんは、どんなに悲しんだことか。この若さじゃ、子どもさんだってまだ幼いだらうに……。事故だったのですか。病氣だったのですか。家族をのこして、どうしてあなたは死んだのですか……。)胸が苦しくなると、鼻の奥がツーンと痛くなった。硬く、ぬくもりのない遺体の手を握りながら、僕は、あふれてくる涙を止めることができなかった。

実習室に、嗚咽の声だけが静かに響いた。僕は、遺体を布で巻きながら、(何でだよ、何でなんだよ。)と、心の中で繰り返して叫んでいた。この三ヶ月、指輪のあとに気づけなかった自分にはがゆかった。今までの出来事が、ものすごいスピードで、僕の頭の中を、いや、全身を駆けめぐっている。心臓の高鳴りを鎮めるかのように、僕は、ゆつくりと布を巻き続けるしかなかった。

そして、布を巻き終わると、静かにシートをかぶせた。私は、解剖台の上に置いた。

僕は、黙祷を捧げ、深々とお辞儀をして実習室を出ていった。

## 《後半》

あれから十年がたち、僕は、あの遺体の男性と同じ年ころになった。仕事柄、多くの患者さんとの出会いがあり、また、いやおうない別れもあった。何年経ても積んでも、「死」と向き合うのは、本当に厳しく、辛いことである。そのたびごとに感情に流されては、医者として仕事にならない。

しかし、あの日、自分の体中を駆けめぐった熱い思いだけは、一日たりとも忘れたことはない。あの激しい感情は、一体何だったのか。初めて人体解剖をしたとき感じた「死」に対する畏れの気持ちや緊張感を、いつの間にか忘れていた自分。一人の人間の人生や生きざまに心奪われることなく、医者になった気分で解剖技術を議論しあっていた若い日の自分。そんな自分への腹立たしさや憤りながら、涙となつて一時に僕を責め立てたのかもしれない。

いずれにせよ、あの指輪の白いあとが、僕の脳裏から消えることはないだろう。なぜなら、あの白い記憶こそが、医者となる僕に教えてくれたのだ。「死」とは「生」の対極にあるものではなく、その人の生命、あるいは生き方や人生の一部であるということ。そして、「死」と向き合うということは、その人の生き方を受け入れ、尊重することだ。

# 活用に生かすための実践報告

## ◎白い記憶

### 1 主題の設定

これまで、「生命尊重」を主題として授業を組み立てるとき、かけがえのない生命をいとおしむ気持ちに焦点を当てて構成するよう心がけてきた。特に神戸の少年事件以来、日常の人間関係の中で、自分を生かし、他を尊重して「生きる」ことの実感を、どのように生徒たちに味わわせるかが、私の中で大きな課題となっていた。

この事件以降、さまざまな少年問題が報じられるたびに、中学生の「生命」に対する畏敬の念の希薄さとともに、「死」に対する畏れのなさもクローズアップされた感がある。

私たちは、自身の生活が平穏無事であることを願いつつも、その道のりが平たんであればあるほど、「生きる」ことの自覚を抱く機会が少ないのではないだろうか。

したがって、道徳の授業の中に、間接的に生死の境をさまようような状況や、人間の死に直面するような場面を設定し、「生」と「死」とを見つめる中で、努めて「生きる」ことの意味を問うていくことが必要だと思われる。

### 2 指導過程の工夫

ことばが難しいので、範読が望ましい。資料について質問があれば、的がそれない程度に内容をかみくだいて説明したり、場面が想起しやすい語りを入れてから発問したりするとよい。考える時間、感じ取る時間を確保しつつ、意見が出にくい場合は、積極的に指名して尋ねてみるのも一つの方法である。

「死」と対峙しながら、どう「生き方」を模索するのか、終末部では、自分や周囲の友だち、家族等の生き方に立ち返って考えられるようにしたい。

### 3 発問の工夫

題名にもなっている、「白い記憶」（遺体の指輪のあと）が、主人公の生き方にどうつながったのかが中心発問となる。指輪のあとに気付かなかっただら、主人公がどんな医者になっていたのか、その姿（私利私欲にはしる、相手の気持ちを考えない、生命を軽んじる、結果だけを重視する、そんな生き方）を自分の生き方と照らし合わせて考えられるかどうかが鍵である。実際に授業をしてみると、資料を読む際、涙ぐむ生徒が多かったことから、今後、主人公の流した「涙」と、自分たちの「涙」とについて、その意味を問う発問を工夫する余地を残した。

### 4 生徒の反応（授業後の感想）

遺体をモチーフにした重いテーマのためか、資料を読み始めると、それまでの導入での和やかな雰囲気が一変し、教室が水をうったような静けさに包まれた。全体的に、活発に議論し合うというよりは、主題が、一人一人の胸の中にゆっくりとしみていく感じだった。中には、本資料を一つの媒体として、肉親が亡くなったときの体験を語ったり、最近の医療事故のニュースを挙げて意見を述べたりすることで、主題の価値を追求したクラスもあった。

### 5 実践者からの一言

本資料は、生徒にとって「非日常」の世界の出来事である。それをどれだけ「日常」の生き方に引きつけて考えられるか。それは、導入でたくさん挙げられた「生」に関するささやかな実感に、生徒自身がどれだけ生きている価値を見いだせるか、ということでもある。

授業後の感想を、学級通信等で紹介したり、一言コメントを掲示したりすることで、生徒自身の「日常」へ返していきたい。

(城山中学校 湯田明美)





## 「ライバルは自分自身」

大野 豊

### 〈資料①〉

出雲信用組合では軟式野球で活躍し、昭和52年にテストで広島に入団。

一年目に一軍で初登板。そのときの記録は

登板数 1 投球回数3分の1 安打5 本塁打1 四球2

三振0 失点5 自責点5 防御率135.00

その後、リリフとして頭角を現し、59年から先発に転向。63年には防御率1位と沢村賞を受賞。平成3年から再びリリフに転じ、同年最優秀救援投手になる。平成7年には40歳8ヶ月でセ・リーグ最年長完封勝利を達成。平成9年には42歳で防御率1位のタイトルを獲得。平成10年限りで現役引退。22年間の生涯防御率は2.90。

平成11年に広島の一軍投手コーチを務めたあと、12年からNHK「サンデースポーツ」の解説者として活躍中。通算148勝100敗138セーブ

「大野さんのライバルは誰ですか？」

現役時代によくそういう質問を受けることがあった。

プロの世界である以上、選手は常に自分が想定したライバルとしてのぎを削り、実力を磨いているに違いない。おそらく質問者は、そんなイメージを持っているからこそ、選手にとつてのライバルを聞きたかったのだらう。

確かに私も、「あいつには負けたくない」という強い気持ちを抱いてプレーすることはあった。そう思わせる選手が同じチームにもいたし、他チームにもいた。しかし、彼らが本当に自分のライバルかという点、実際はそうではなかった。

結局は、ライバルは自分自身。

自分自身に確固たる物を身につけられるかどうか。心の中に迷いや弱さが出た時、自分自身に負けることなく、それを断ち切るだけの精神力や信念を持てるかどうか。いかに自分を作っているかということなのだ。

そうしないと、相手とは戦えない。自分が中途半端な人間のうちは、あいつがどうこうと意識している場合ではない。

しかし、どうしても自分はそのうちのけで、周りのこと、余計なことばかり気にしてしまう人が多いのも事実だらう。かくいう私も、そういう意識を持てるようになるまでにはずいぶん時間がかかっている。

もともと私は、精神的に弱く、常に結果や先のことを考えすぎてしまうタイプだった。それこそ、本当はプロ野球の選手として修羅場をくぐり抜けられるような性格ではなかった。勝てる試合で自滅したことが何度もあった。

(何で俺はこんなに情けないんだ)

いつもマウンド上でそんなことを考えているようなピッチャーだった。

最も自分の弱さが出たのは、江夏さんが日本ハムに移籍した後に抑えを任された昭和56年からの3年間。登板する前から、

「お前は投げるな、江夏だったらよかったのに」

と野次られ、そのたびに、また失敗するんじゃないかと不安に駆られる自分が本当に嫌でたまらなかった。

そんな自分を変えたいと思い始めたのは、皮肉にも、抑えから解放されて先発に復帰した昭和59年になってからだ。当時の私は、同じ左ピッチャーである江夏さんに近づきたいとずっと思っていてやってきた。当然目標を持つことは大事なのだが、その時ようやく何かが見えてくるといふことに気づいたのだ。

江夏さんはあくまでも江夏さんであって、私ではない。同じようなことを目指しているうちは、江夏さんを超えることはできないし、結局は自分の殻さえ破ることができないのではないか……。

(大野はこういうピッチャーだという、自分のスタイルを作らなければいけない)

そこに行き着いた時、では自分の持ち味は何かと自問自答してみた。江夏さんに勝てるものといったら、まっすぐのスピードだ。それなら、そのスピードボールを生かすためには、変化球とコントロールを身につけることも必要に違いない。

そんな意識で取り組むようになってから、自分の力を徐々に出せるようになった。それによって自信も生まれ、ピッチャーとしての成長にもつながってきた。

座右の銘ではないが、いつのころからか、私は自分のサインの横に「不動心」と書くようにしている。不動心、すなわち物事に動じない心。ピッチャーでいえば、マウンドに上がっても自分を見失わずにバッターに立ち向かうということ。そのためには、相手うんぬんよりも自分自身を理解していることが第一だ。

---

#### 〈資料②〉

バットを怖れるのではなく、( ) を信じる。

最悪を予想するのではなく、最善を確信する。

相手の弱点を攻めるのではなく、( ) を発揮する。

私は、自分の欠点におびえるのではなく、美点を信頼するようになってから、不動心を習得できたように思う。そして、平成3年に再び抑えになった時にはもう、かつてのようなマウンドでの不安は消え去っていた。

(「全力投球 我が選んだ道に悔いはなし」 大野 豊 著 宝島社)

# 活用に生かすための実践報告

## ◎ 「ライバルは自分自身」

### 1 主題の設定

一人一人の人間は姿や形がちがうように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。中学生の時期は自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人の比較においてとらえ、その至らなさに悩むことも少なくない。中学生のこの時期に、自分のよさを見つめ、さらに伸ばしていこうとする態度を養うことは、大切である。

第1学年の後半、進路学習などをしていく時期に学習することで、効果があると思われる。

### 2 指導過程の工夫

導入では、大野投手の写真などを利用し、興味をもたせた。大野投手＝強い人というイメージをもっているのではないかと思いき、救援投手とはどんな性格の人か考えさせた。また、タイトルである「ライバルは」の次を予想させることで、意外性をもたせたかった。

自分自身を見つめる場面で、自分のよさがわからない生徒もいるので、班内でお互いのよさを考えるという展開を入れる方法も考えられる。

また、大野投手に関する映像があれば、利用することで、さらに学習効果が高まると思われる。

### 3 発問の工夫

プロ野球選手という、自分たちから見れば「すごい人」も、自分たちと同じように、気が弱かったり、悪い方へと考えてしまう

ところに共感させるため、「自分との共通点」を考えさせた。

投手であれば、バッターの弱いところへ投げようとするのが予想されるが、自分の長所を発揮することで「不動心」を習得できることを印象づけるため、資料を区切り、資料後半をまとめとして扱った。資料後半をプリントにして配布してもよいが、大きく書いたものを黒板にはることで、資料の提示の方法に変化がつくと思われる。

### 4 生徒の反応（授業後の感想）

地元広島野球選手であり、野球解説者でもあることからテレビで見る機会も多く、よく顔も知っていて、特に男子が興味をもって授業に取り組んだ。夏休みに著書を読んでいる生徒も多かった。

### 5 実践者からの一言

わかりやすい資料であり、自分を見つめやすい内容であった。しかし、自分のよさがわからない生徒もいるので、今後の教師の声かけや指導が必要であると感じた。

また、「すごい人」というイメージが強く、大野投手が自分の弱さについて述べている部分と自分自身を重ねられない生徒もいた。

授業後も大野投手の写真や、資料後半のことばを教室に掲示することで、学習内容が、印象に残ると思う。

(祇園中学校 澤井美由貴)

### 【出展：引用資料】

「全力投球 我が選んだ道に悔いはなし」

大野 豊著 宝島社